

東北・災害ボランティアセンター

地元と協力関係構築、百カ日法要要請も

東北教区現地緊急災害 地元の社会福祉協議会（7月5日現在）が活動対策本部が3月17日に設置したのが東北教区災害ボランティア活動に関する情報を収集。希望者に提供するボランティアセンター。ボランティアが宿泊可能な施設を備え、5月14日には宿泊定員を60人に倍増した。

地元の社会福祉協議会（7月5日現在）が活動などと連携し、ボランティアに従事。寺院や避難所への物資搬入、炊き出し、遺体安置所での読経をはじめ、寺院や民家の瓦礫（がれき）の撤去、解体や除却、清掃奉仕など東北の被災地全域にわたり支援

全国から延べ3189人

活動を行ってきた。

6月18日には宮城県気仙沼市で百カ日法要が営まれたが、地元ボランティア団体「ゲットバックス気仙沼」と同センターが支援活動を通して協力関係を構築できていたことで実現した。

ボランティア団体の渡辺道徳代表が「本願寺から来てくださる皆さんに節目の法要をつとめてほしい」と同センターに相談。心を落ち着けてくれた人もおられ、救われる思いがした」と話していた。

「しい」と同センターに相談。心を込めた法要に参列者から感謝の言葉が多く寄せられ、渡辺代表は「地元には浄土真宗の門徒は少ないが、宗派が違っても手を合わせる場がほしいとみんなが願っていた。法要を一つの節目と